

Citizen activity information magazine

三浦市民生活向上会議会報

〒238-0102

神奈川県三浦市南下浦町菊名1258-3

三浦市総合福祉センター

電話 046-888-7347

発行：社会福祉法人三浦市社会福祉協議会

発行責任者：出口 道夫

VOL.4

第四回ボラ活動推進部会の開催

去る六月六日、第四回目となるボランティア活動推進部会が開催されました。主要なテーマは「活動助成金の配分」についてです。三浦市からの補助金が年々減少する中で、既存の枠組みと手法の中で、今後とも継続的に助成金を配分していくことには限界があるのではないか？との結論に達しました。

活動助成金の配分方法を抜本的に見直す！

逼迫した行財政状況の中で、ボランティア活動に対する三浦市からの補助金は、年々減少を続け、現在では、

最盛期の半分以下にまで縮小してしまいました。そのため本会では、共同募金の配分

金や会費もこれに充て、活動助成資金を捻出してきたわけですが、いよいよ、これまでどおりの金額を各団体に配分することが難しくなってきました。こうした事務局からの状況説明に対し、各委員からは、既存の助成方法を見直す時期が来たのではないかとといった意見が聞かれました。

そこで、これまで期間を限定していた助成金の申請日を通年とし、より公共性（社会性）の高い活動や新しい社会問題に対応するための活動に優



毎回熱心なご審議をいただいているボランティア活動推進部会員の皆さん。

ボランティア活動助成方法新旧比較表

| 項目 | これまでの助成方法 | これからの助成方法 | 備考 |
|------|-------------------------|----------------|--|
| 申請日 | 5月中旬申請締め切り 6月中旬までに配分 | 通年 | ○活動を実践する日の2ヶ月前までに事前相談をおこなった上で、公共性・開拓性を判断し、助成の可否を決定する方式に改める。 |
| 助成額 | 画一的 | 活動に見合う額 | ○これまでは、団体毎に総事業費の50%を上限に助成金を支給できるようになっていたが、事実上、画一的な支給に終始していた。こうした状況を改め、今後は上限額を設けずに、公共性・開拓性を判断したうえで、必要な額を支給する方式に改める。 |
| 月例報告 | 月例報告を求めている。 | 廃止 | ○個々の活動については、インターネットを通じて公開できるようにする。 |
| 広報 | 紙媒体 | インターネットの積極的な活用 | ○当面は登録団体毎に専用のページを設け、適宜内容を更新できるようにする。 |
| その他 | — | タイアップ活動の促進 | ○助成金の支給だけでなく、市・社協がタイアップすることで、会場使用料を免除したり、講師の謝礼を補助できるようになる。また、広報の面でも、三浦市民や社協みうらの活用が見込める。 |

先に配分していかうということになりました。その際は、申請手続きを簡素化すべきだとする意見の一方で、納税者たる市民の立場からすると「助成金を出してしかるべき活動にこそ配分すべき。その判断は申請書類に頼らざるを得ない」などといった意見も出てきました。他にも審査の迅速化や新方式の導入を前に手続きの周知徹底を求め意見が寄せられました。いずれにしても、社会性や開拓性をキーワードに、旧態依然とした助成のあり様から、時代にマッチした助成方式への転換をめざしていくこととなります。

プレテストの集計作業進む!

ボランティア活動に関する市民アンケートのプレテストとして実施した社協職員、三浦市職員、ボランティア連絡協議会加盟団体構成員対象のアンケート票が、無事に回収できました。現在、鋭意集計作業をおこなっているところです。集計ができた順に結果を公表していきます。

ボランティア活動推進部 力もあつて、市役所の職員を会の部会員でもある三浦市 対象としたサンプルが三百市民協働部協働推進課の石 対象としたサンプルが三百川博英さんの全面的なご協 力を、社協職員を対象としたサンプルが七十を超えました。

既に単純集計は済んでおり、簡易な分析を加えているところです。結果の一部は社協のホームページに掲載されていますが、順次、その概要をレポートしていきます。また、その様子が、神奈川新聞やタウンニュースによって報道されました。現在、一般市民を対象にアンケート調査を実施すべく、準備をすすめているところで



三浦市協が作成した漫画形式アンケート
三浦市下浦町支部の総合福祉センター

漫画でアンケート

三浦市 ボランティア意識探る
社協

ボランティア活動推進の動に参加する際の障害、ための問題点を探ると、三浦市社会福祉協議会は漫画形式の市民向けアンケートを作成した。行政だけでは対応できない地域課題への人でも多くの住民の参画を促すため、今年度中に市内に住む500人に発送予定。同社協は「簡単に答えられるので、協力してほしい」と呼び掛けている。同社協では5年ごとに地域福祉の推進を目指した「地域福祉活動計画」を策定している。2013年度中に後継計画の策定を目指しており、ボランティア活

↑
2012(平成24年)
7月6日 金曜日
神奈川新聞
横須賀版

↓
2012年(平成24年)
8月3日(金)号
タウンニュース

市社協 創作漫画で意識調査へ

回収率UPIに一手

三浦市社会福祉協議会はこのほど、漫画で表現したボランティア市民活動に関する意識調査を初めて作成した。同社協では、今後のボランティア活動推進計画に反映させるために、多くの市民の考えを把握したいという意図がある。

今までは通常のQ&A方式の調査を用い、意識調査を行っていたが、回収率の低迷が課題となっていた。同社協の会議で「今までのことは一度ゼロにして新しいことをやってみよう」という観点から練り出されたのが、漫画による調査票だ。

漫画の主人公の名前はボラ君。例えば「地域社会の主人公」は「ボラ君」だ。中には様々な問題があり、意識調査をしようとする。あなたならどうしますか? という質問ほか、地域社会の中で課題やボランティアについてなどを漫画で表現し、設問として取り上げている。

アンケートは用途によって適切に回答が得られるように、ボランティア経験者用と未経験者用の2種類を作成。アンケートはA3を2つ折りしたもの。各1500部計3000部を印刷。無作為に抽出された家庭に経験・未経験者用各1部2部セットで8月までに発送する予定となっている。同社協では、半分以上の回収率を期待しており、「二人でも多くの市民の考えを得るために協力ををお願いします」と呼び掛けている。

事前に新聞報道がなされるという幸運もあって、高い回収率が期待できるアンケート調査。漫画による調査ということで、物珍しさも手伝っているのでしょうか。

ですが、郵便局との調整も終わり、今月二十四日には、被調査者に向けてアンケート用紙を郵送する予定です。これにも、石川部会員より一方ならぬご尽力をいただきました。なお、このアンケート用紙は、三浦市長と社協会長の連名で対象となる皆様のお手元に届きます。三浦市と社協の協働事業として、よりオフィシャルな形で調査がおこなわれることになったのです。

トピックス

◆去る七月十三日(金)、綾瀬にある貴志園を視察してきました。

貴志園では、施設入所支援、生活介護事業、就労継続B型事業、グループホーム/ケアホームの運営をおこなっています。

◆事業課の職員が中心となって、ケースカンファレンスや勉強会を熱心に開催しています。



編集後記

▼現在アンケート集計作業に動んでいます。石川部会員の協力には心から感謝しています(杉崎) ▼杉崎と意見が合いません(佐藤)

次回のボラ部会は、八月二十二日。オフザパー大歓迎です。